

常総市総合教育会議 会議録【要旨】

【日 時】 令和2年1月27日（月）午前10時～午前10時55分

【場 所】 常総市役所本庁舎3階庁議室

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議事項
（1）教育費に係る令和2年度の取組について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

出席者

教育委員：岡野克巳教育長，平井丈史教育委員，東谷綾子教育委員，荻根文江委員，倉持好一委員

教育委員会：飯村教育部長，西村学校教育課長，蛭原指導課長

市長部局：神達市長，藤島副市長，小林市長公室長

事務局：小林市民と共に考える課長，横田市民と共に考える課長補佐，岩田行政経営係主査兼係長，谷田部行政経営係主幹

市民と共に考える課長	<p>ただいまから常総市総合教育会議を開催する。この会議は原則公開とし議事録も公開させていただくが、今回の案件については「教育費に係る令和2年度の取組について」ということから、2月定例会議に上程するまでの間は非公開とさせていただく。議事録については2月定例会議閉会後に公開の手続きをさせていただく。それでは、開催に先立ち、神達市長よりあいさつをいただく。</p>
市長	<p>本日は、お忙しい中お集まりいただき感謝する。この会議の目的は執行部と教育委員会との意思疎通、これからの常総市の次代を担う子供たちの教育を考える大切な会議である。本日は屈託のない意見をいただきたい。特に子育て環境の整備、保育所、幼稚園、小中学校も含めて考えていくうえで一番大きな時代の波というのは少子化である。これからの5年10年先を考えると現在でも課題が多く、保育所、幼稚園問題も大変な少子化となっている。私自身、子育て世代の皆さんと市内15地区を歩き、タウンレビューを開催している。現在まで5か所終わったところだが、その中で保護者の皆さんもここまで子供の数が減っているという認識がほとんどなかった。これまでなかなか手を付けてこなかった幼稚園問題は石下地区において、公立5か所が東部1か所、西部1か所の合同保育を行っているが、水海道地区の保育所問題はこれから大きく動き出す形となるので、その辺りを皆さんと議論をさせていただければありがたい。よろしくお願ひしたい。</p>
市民と共に考える課長	<p>それでは協議に移る。ここからは議長となる神達市長に進行をお願いする。</p>
市長	<p>これより協議に入る。本日の案件である「教育費に係る令和2年度の取組について」事務局より説明願う。</p>
学校教育課長	<p>本日の案件は「教育費に係る令和2年度の取組について」となっているが、あくまで予算要求ベースとなっている。こちらは学校教育課、指導課の予算の配分となる。要求ベースで約12億4千万円となっている。</p> <p>それでは、令和2年度の取組ということで、まずは特記事業1「市立保育所と市立小学校の一体的整備」。この事業の予算は保健福祉部こども課となっているが、小学校が大きく関連する事業となっている。保小連携の小学校の配置は菅生小学校、豊岡小学校、三妻小学校を考えている。現在、常総市は6つの保育所を有する。一番の課題は著しい老朽化。耐</p>

震性能に不安がある。旧耐震基準で建築された保育所について耐震診断を実施したところ、全てにおいて耐震性能が不足しているという結果であった。第1, 第2, 第4保育所についてはひどい状態であったということで、耐震補強を検討したが、改修工事を行いながら保育を続けることは難しく、子供の安全を最優先させるということで耐震工事がすでに済んでいる小学校の空き教室を活用するという事となった。しかし、空き教室だけでは足りないため、その他にプレハブを設置するなど、小学校内に保育所を整備する方針で協議をしてきた。さらに、第5保育所についても耐震が良くなかったが、こちらはこども課で民設民営の手法で進めていると報告を受けている。第3, 第6保育所については耐震基準を満たしているため、そのまま継続する。第6保育所は園舎を増築中であり、1歳児2歳児を拡張していくことで進めている。次に、保小一体整備の際に検討された課題と対応策ということで、最大のテーマは保小両者の安全性の確保である。対象となる小学校には最大限の空き教室を調査、確保していただいた。また、保育所は給食があるため調理施設を設置、トイレも幼児用に改修、設置をする。また、怪我や授業に影響が無いようにお互いの生活区域を分離することで進めている。さらに、保小連携を活かした保育の実施。一体整備に向けた予算は2,381万4千円。こども課から予算要求をし、1月16日の市議会で議決された。内容は設計委託費となっている。工事費については、令和2年度当初予算で要求していくということで報告を受けている。現在の整備のイメージだが、まずは豊岡小学校の工事の概要。教室の改修、調理室の設置、トイレ。これはどこの小学校も同様。駐車場。保護者が車で送迎されるので車の導線を考えている。三妻小学校。西側からは入れるように考えている。次に菅生小学校。狭い道路ということで入り方を工夫して考えていくということが議論のポイントとなった。スケジュールについては、こども課より示されたものであるが、令和2年度の途中から3つの小学校について保小連携保育を実施していく。それまでに小学校の改修を行っていく。全体のスケジュールに対してどう説明していくかであるが、1月末を皮切りにPTA本部役員に説明をしていく。2月28日は3つの小学校で説明を行う。保育所についてはこども課が説明を行っていく。

次に特記事業2「西部地区統合幼稚園の開園について」。こちらは学校教育課の管轄となっている。検討の経緯ということでまとめさせていただいた。当初は改修を予定していたが、園舎が古いため改築でも変わらないのではないかとということで、今年度の夏に改修から改築へ変更した。同時に改築に向けた設計の費用を補正予算で確保し、令和2年度に向けては工事費を要求している。これから保護者には2月上旬に説明を行うため、取扱注意でお願いします。

次に特記事業2に関する関連事項「東部地区統合幼稚園の課題」。こちらについては令和2年度の予算要求はしていな

い。理由は先日幼児教育の無償化が始まったため、それに対する様子をもう一年見るということ。人数が非常に少なくなっており、今年度の新規申込者は14名である。去年は19名の申し込みがあった。現在は76名いるが、来年度は66名となることが予想される。概算の推計だが令和4年度には38名ほどに減ってしまう。こちらについても2月末の定例会議の全協で説明する予定である。そのため、現時点ではこちらでも取扱注意でお願いする。

次に特記事業3「水海道中学校夜間学級（夜間中学）」。最新の情報（1月17日現在）が出たことから掲載をした。4月から学級がスタートすることとなるため、準備経費ではなく運営経費を要求していく。運営経費は230万円ほど要求しているが、人件費については県の方で先生を派遣していただくことになっている。

最後に特記事業4「中学校入学記念品事業×生徒の交通安全対策×地方創生」。ヘルメット。以前、教育委員の皆さんには見ていただいたが、いよいよ予算要求というところまで漕ぎ着けた。卒業する6年生に配布する中学校の入学記念品である。予算要求額は全部で172万2千円ということで単価は3,080円。従来品の2,800円より若干上がるが、さらに被りやすくなると予想している。説明は以上。

市長 子供が減っていくことで様々な教育環境、保育環境の整備に課題が出ている。「解決できない課題はない」という言葉を信念にしっかりと教育環境、保育環境を整備していくうえで、まずは幼稚園、保育所ということでこのような整備の方針に至った。教育委員の皆さんからご意見いただきたい。

教育長 保育園児の安全性の確保。そのために耐震基準がしっかりしているということで小学校となった。その中で保小連携ということテーマとして考えているが、将来に責任を持つために限られた状況の中でハード面だけでなく成長に向けた最大限の良い環境にしっかりと取り組む。その一つが保小連携である。例えば、分かりやすいのが様々な行事を合同で行う。保育園児や小学生、あるいは保護者も巻き込んで成長をしっかりと担保するという意味での連携した行事が各種組める可能性が非常に高い。最終的には小学校へのスムーズな接続となる。もっと違った視点から言うと保育所と小学校を1足す1を2ではなく2以上の結果を出す。そういった思いで保小連携もしっかり取り組んでいく。

市長 小学校も保育所、幼稚園も人数が少なくなっており、これからもっと急激に少なくなっていく。小学校も空き教室が出

てくるという中で保育所も全てを新しくする訳にはいかないということもあり、このような案となった。小学校との保小連携という保育所と学校が同じ屋根の下で教育をするというのは珍しく、新たな先進事例としてなってくるような保小連携である。一番効果があるのは避難訓練や防災訓練。こういった部分について小学生が小さい子供の面倒を見ることや情操教育の部分も含め、何か良い面でメリットが出てくる。しかし、危険性も出てくるので、しっかりと教育委員会とこども課も含めて随時話し合いを持ちながら課題解決をしていかなければいけない。

委員 私に勤めた学校も保育所の子供たちを招待して1年生、2年生と一緒に生活科の授業を年2回やっていた。私は最後のころは小さい学校が多かったので、近所の2つの学校で1年生を集めて図工や生活科の授業、校外学習も1台のバスで2つの小学校で同時に行っていた。すごくメリットがあったと思った。管理職でやっていた時に不安だったのが何か起こったときである。豊岡小は入り口から近いが、菅生小は蕎麦屋からの入り口が狭いと思った。その辺は相当気を使わないといけない。実はきぬ学園がすぐ近くにあり、5時半頃に子供たちの迎えの方が集中する。年配の方が迎えに来た際に飛ばし過ぎて田んぼに突っ込んだ。保育所の保護者の送迎は意外なことが起こる。平日は良いが行事などがあつたとき。小学校の場合は先生が誘導できると思うが、保育所はそこまで余裕はないと思う。そういったことを考えながら説明を聞かせていただいた。すごく準備をしており、細かいところまで配慮していると思った。

委員 幼稚園、保育園に関しては、綿密で安心安全も子供たちや保護者の立場を考えて、しっかり準備をされていると想像以上にびっくりした。小学校を利用しての計画だが、私立などは幼稚園から小中高大とやっているのだから、そのメリットを活かしている。きっと大きく活かせるし、総合的に考えるとこの企画は仕方ない。教育長がおっしゃった通り、1足す1が2だけではなく3でも4でも5でもなるように。小学校ではないが、現在、幼稚園は石下総合福祉センターで、お年寄りや市民などがなど行きかう場所にある。見学させていただいたが、本当に良かった。評判も悪くないと聞いている。成功例である。保小連携については、現時点ではしっかり考えられていると思う。

委員 市長がタウンレビューで伺ったときは、実際に保護者の方から少子化などに対して不安や悩みなど具体的に何か出てきたか。

市長	<p>今回の保小連携については否定的な意見は無かった。豊岡地区、坂手地区で出た意見は公立保育所の時間延長である。民間は朝早くから夜遅くまで預かってもらえるが、公立は時間が短いということで預けにくいという声が出た。母親の年代の方が、パートしかできない。共働きでなければ家庭が厳しい。もう一つは守谷市、つくばみらい市など周りにあって常総市に無いのは病児保育の預り場所。子供が体調を崩したら仕事を休まなければならないが、ご両親に預けようとしても働いている。みんな働いている世代となっている。正社員になりたいがなれないといった声が聞かれた。守谷市は駅前にある。</p>
委員	<p>はたちの集いの時に、現在の600人が今の生まれた子たちは半分になるという話を聞いた。少子化は課題としてはすごい大変なことだと感じる。しかし、若い人たちをどのように常総市で受け入れていかなければならないか。教育だけでは手が届かない部分もある。子育て世代はその時期しか保護者の方たちは関われない部分であるため、そういった部分も手厚く取り組んでいただきたい。また、自園調理室だが、これからどんどん子供たちが減り小学校も減っていくのであれば新たに調理室ということではなく、給食センターと一緒に使うことは出来ないか。同じ場所でやるのであれば、形を変えて幼稚園や保育園にも提供することが出来るのではないか。縦割りではなく横と縦を合わせた中での連携という意味では市でもいろいろな取組に協働ということで考えていただきたい。</p>
学校教育課長	<p>給食については、まず給食センターで配送など出来ないか担当者で話をしたが、こども課に確認をしたところ、法律的に自園調理でなければならないということであった。</p>
市長	<p>石下の幼稚園の保護者から言われることは幼稚園でも給食を出してくれということ。幼稚園も縛りがあるのか。</p>
学校教育課長	<p>幼稚園は可能である。園長先生や主任の先生との会議の際に給食は出ないのかと話をすると、月1回カレーの日があるそうだが、その他は実現していない。</p>
市長	<p>昨年初めてアレルギーに対応したスマイル給食を実施した。昨日、お子さんがアレルギーを持っているため、みんなと</p>

同じ給食を食べられないので毎日お弁当を持たせているという方が来てくれたが、友達と同じ器で、同じ給食を食べることができたと喜んでくれている。スマイル給食の回数を増やしていただければありがたいという声をいただいた。

教育長

4月から夜間中学校が始まる。夜間中学校を創る思いとしては、セーフティネット。不登校など何らかの事情で中学校を卒業できていないなど、そこにベースを置いてスタートを切った。志願者の傾向。それぞれ強い思いをもっており、しっかり受け止めてやらなくてはいけないという責任、思いを持っているところ。こういったことをやるのが、今の子供たちに欠けている部分を何らかの教育に活かせればといった思いもある。まだまだ不安材料はあるがよろしく願いたい。

市長

私も地域を歩いていると、この夜間中学に関しては良いことをやったという声をいただいている。始まると様々な声が出てくると思う。周りの首長にも良い取組みをやっていると言われている。ぜひ、常総市らしい教育のひとつの在り方としてPRができ、常総市に移り住んでくれる方が増えてくれればありがたい。

委員

常総市は比較的に日本の中でも外国人の方が多い。もちろん外国人の方を中心とする夜間中学ではないが、これからますます外国の方が増えてきて、労働力として我々よりも協力していただかなければならないわけであるため、彼らと共生をしなければならない。きちんと日本の社会を含めて理解していただき、心の交流も持っていただき、日本を好きになっていただく。それが教育長がおっしゃったセーフティネットであると思う。目先のことだけではなく、5年10年後を考えたときに大切なことであり、重要で貴重なことである。

教育長

保育所と小学校に通っている親は結構いると思うが、今まで別々であった学童やほっとサタデー、保育所の迎えが一緒に行ける。これは一人二人ではないと思う。

市長

豊岡でも学童の時間延長について、有料になっても時間を延長してくれて助かるという声をいただいた。

副市長	朝は30分早く。帰りは一時間遅くということでの有料化。
委員	本市のはたちの集いはしっかりしていると思う。何年もかかって常総市の小中学校の教育の結果である。それが花となって実を結んでいる。本市の教育がしっかりしていることの証である。学校訪問など行ったとき、先ほど給食のアレルギーの問題なども含め、全国どこでもやっていることであると思うが、非常に丁寧に細かく対応している。市長や教育長さんなど皆さんのご努力の結果であると思う。学校だけでなく図書館や給食センターも行くが一生懸命やられている。組織として皆さんがしっかりやられているということではないか。
学校教育課長	ここで先ほどお話しさせていただいた西部統合幼稚園を設計している立面図を見ていただく。木をたくさん使った形で予定している。
市長	名前はどうか。
学校教育課長	募集する。
市長	ここまで約1時間経過したが、貴重なご意見をいただき感謝する。今後も忌憚のない意見を随時いただければと思う。常総市の教育が注目されるようになってきた。今後も大きな壁はたくさんある。小学校の統廃合を含めてここで議論していかなければならない時期に来ている。ご指導いただきたい。 ここで進行を事務局にお返りする。
市民と共に考える課長	それでは以上をもって総合教育会議を閉会させていただく。

(午前10時55分 会議終了)